

戦後（1945～1950） その1

《八高線列車正面衝突事件》

終戦直後に、あってはならない事故が発生します。1945年（昭和20）8月24日午前7時40分頃、八高線（注1）多摩川橋梁において、旅客列車同士が正面衝突します。両列車は、帰郷する復員兵や疎開先から帰る人々で超満員であり、105名以上が死亡。

当日は、台風通過による激しい雷雨で信号機が故障し、さらに通信が途絶して駅間の連絡が取れず、列車の運行連絡ができなかったことから、正面衝突したとされています。

衝突により客車は多摩川へ転落し、投げ出された乗客の多くは、折からの豪雨で増水した濁流に流されてしまいました。行方不明者も多く、実際の死者数は上記の人数を大幅に上回ると言われています。

その後、鉄橋の下流約50mにある中州の土中から、衝突車両の残骸と見られる2対の車輪が発見され、2004年（平成16）から堤防の上に設置されています。

なお、八高線では、再び悲劇が発生します。1947年（昭和22）2月25日午前7時50分、高崎行きの6両編成の客車がカーブを曲がりきれず、横転転覆したのです。死者184名、負傷者500人弱を出す大惨事でした。

また、多摩川が関係する列車事故としては、1961年（昭和36）小田急電鉄とダンプカーが衝突し、先頭車両が多摩川河川敷に転落した事故がありました。このような事故は無くさなければなりません。現在、衝突現場の踏み切りは、小田急線が高架となって解消されています。

注1：八高線とは、八王子と高崎を結ぶJR線路です。

写真は、①八高線列車正面衝突事故（blog「在りし日」掲載写真）②土手に展示された車輪（HP「日本の名所、観光スポットなどの地図情報、概要」掲載写真）、③小田急電鉄ダンプカー衝突事故（HP「北山敏和の鉄道いまむかし」掲載写真）

